第15回

国際ボランティア ワークキャンプ報告書

実施日　2020年12月19日（土）会場　熊本市国際交流会館

テーマ　TSUNAGU～つなぐ～

15th International Volunteer Work Camp

Contents

01 目的・概要、概略、スケジュール

02 開会式・基調講演
第１分科会報告「食品ロス」

03 第２分科会報告「多文化共生」
第３分科会報告「予防医療」

04 第４分科会報告「差別と偏見」
全体報告会

05 閉会式
実行委員長からのメッセージ

06 ボラキャン15周年記念オンラインフォーラム報告

SCHEDULE

12月19日(土)

9：30	一般参加者受付（６階ホール）
10：00	開会式
	基調講演（興梠 寛氏　昭和女子大学総合教育センター特任教授）
11：20	実行委員・分科会の紹介
12：00	昼食
13：00	分科会活動
	第１分科会　食品ロス　@国際会議室
	第２分科会　多文化共生　@第３会議室
	第３分科会　予防医療　@第１・２会議室
	第４分科会　差別と偏見　@ホール
16：30	全体報告会　@ホール
17：00	閉会式
	講評（西尾　雄志氏　近畿大学総合社会学部准教授）
18：00	終了

◆目的・概要

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営するワークキャンプを計画・実施しました。本来であれば阿蘇の大自然の中、２泊３日の宿泊型で実施予定でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で１日のみのプログラムを熊本市国際交流会館で実施しました。

第15回目を迎える今年度の国際ボランティアワークキャンプ（以下、ボラキャンと記述）では、「TSUNAGU～つなぐ～」をテーマとして掲げ開催いたしました。これまでの長い歴史を引き継ぎ、途絶えさせることなく次の世代に繋いでいきたい、また、ボラキャンで得られるたくさんの気づき・発見や想い出、友との出会いを参加者に繋いでいきたいというECの強い思いが今回のテーマには込められています。

今回は102名の高校生、３名の留学生、そして９名の日本人大学生がサポーターとして参加しました。主に分科会活動を中心としたプログラムのもと、交流を深め、お互いを理解、「思い」を共有し、日ごろの生活の中で活かせるボランティア活動の取り組みに結びつけていくことができました。

◆概略

- **実施年月日**
  2020年12月19日（土）
- **実施会場**
  熊本市国際交流会館
  （〒860－0806　熊本市中央区花畑町４-18）
- **参加者**
  105名
  ①一般高校生／実行委員（EC）（90名／12名）
  ②留学生（３名）
- **主　催**
  国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
  (Executive Committee 以下EC)

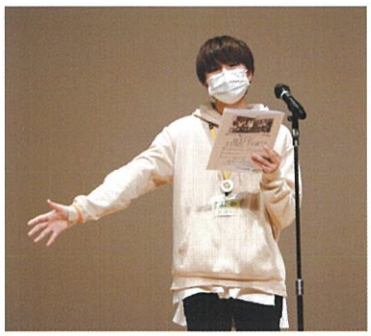
※高校生の構成メンバー及び構成団体については、裏表紙に記載。

◆分科会アドバイザー・事務局

- **分科会アドバイザー**
  大住　葉子（FSやつしろ、八代白百合学園高等学校教諭）
  大和　賢佑（秀岳館高等学校教諭）
  阿南　栄子（熊本県外国人サポートセンター）
  岩坂　省吾（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ）
- **事務局**
  八木　浩光、勝谷　知美、下田　隆文、
  木下　俊和、田上　美奈（KIF）

開会式・基調講演

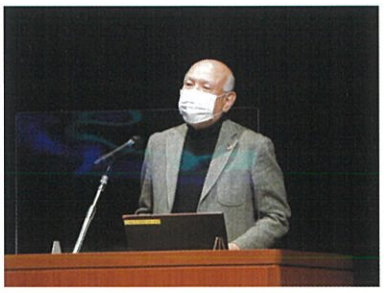
報告者　友井　寧音（熊本高校２年）



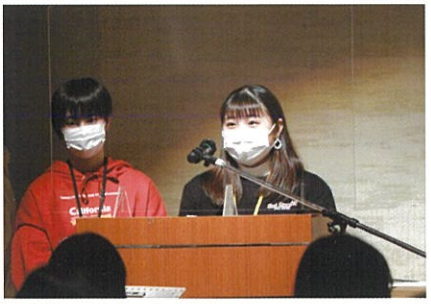
開会式は、熊本市国際交流会館の６階ホールで行われました。受付が始まると、大勢の参加者が続々と入場してきました。感染対策のため、分科会ごとに分けて誘導を行い、席に座ってもらいました。開会前は緊張からか、どこか静かな空気が保たれ、正面のスクリーンに写し出されたこれまでのボラキャンの映像に見入っていました。

そして開会の時間になると、開会宣言とともにボラキャンが始まりました。開会式では、実行委員長あいさつから始まりスケジュールの確認や感染症対策などの諸注意について説明を行いました。

今回の基調講演は、昭和女子大学総合教育センター特任教授である興梠寛先生にお話しをしていただきました。現在、世界を分断する壁の存在、その中で切り捨てられようとしている人々の存在について語られました。そして、地域社会のつながる力が弱まりつつある現代日本において、



ボランティアの果たす役割は「つなぐ」ことであることを述べられました。ボランティアとは、日常の中で誰でもできる社会貢献の一つの形、誰にでも保障された権利であることをお話しされました。人々をつなぎ、縁を結ぶリーダー像を、縁結びの神様にたとえた話も分かりやすく、参加者も熱心に話を聞いていました。興梠先生はボラキャンに最初から関わってくださっている方ということもあり、当初のボラキャンについての話も伺うことができました。こうして長い間、高校生の熱意によって受け継がれてきたことを改めて感じ、今回へのやる気がさらに高まりました。



第１分科会　参加者数　23名　「食品ロス」

報告者　本多　明日香（熊本高校２年）

私たち第１分科会では、「本来食べられるのに捨てられてしまう食品ロス」をテーマにして活動を行いました。初めにアイスブレイクとして、参加者同士で最近あったことやこれからやりたいことを接続詞のカードを使いながら話す「自己カタルタ」をしました。接続詞を引いた後にどう文章を繋げていくか苦戦する場面もありましたが、沢山話すことで緊張も解け、参加者同士も仲良くなりました。

次に、「食品ロスはなぜダメなのか？」ということについて、最初は個人で考え、その後、グループで話し合いました。

最後に、食品ロスの原因とその解決策について話し合いました。途中でECが、食品ロスには大きく分けて事業活動で出る事業系食品ロスと各家庭から出る家庭系食品ロスの２種類があることや、事業系食品ロスは段階によって更に４種類に分けられること、先進国と途上国では食品ロスが起こる段階が異なることを説明しました。今回のボラキャンの開催時期がクリスマス直前ということもあり、クリスマスツリーに自分たちが考えた原因とその解決策を付箋に書いて貼っていきました。（右写真）

今回考えたことや初めて知ったことをきっかけに、身の回りにある様々な出来事に興味を持ち、食品ロスを解決するための行動に移していってほしいと思います。1日という短い時間でしたが、忘れられない思い出になりました。分科会活動を一緒に作り上げてくれた参加者の皆さん、分科会活動をサポートしてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

第2分科会　参加者数　25名　「多文化共生」

報告者　野口　花音（文徳高校２年）

第２分科会「多文化共生」では、多文化共生を推進していくためには何が大切で何が必要なのかを最終的に考えてもらうことを大きな目標として活動しました。

初めに自己紹介をし、「ワードウルフ」というゲームをしました。あるお題について周囲の会話をヒントに皆と違うお題を与えられた少数派の人を探し出すゲームです。このゲームを通して周囲の環境をみて文化を合わせ生活していくという在日外国人の気持ちを参加者に感じてもらいました。

次に、グループを中心にディスカッションを行いました。まず、「多文化共生」についてのイメージを聞き、その後自分にとっての理想の多文化共生の社会を考えてもらいました。

そして、言語・宗教・ステレオタイプ・ルールの４つの観点から起こる問題について話し合い、その問題に対する対策や改善策を出し合ってもらいました。言語の観点では、問題点として看板の表示があり、対策として多くの国籍の方々にもわかるような絵や図を使うという意見が出ました。その他の観点でもたくさんの意見が飛び交い、とても有意義な話し合いができました。最後に、多文化共生を推進していくためには何が大切で何が必要なのかを考えてもらいました。「相手の文化を知ろうとする」、「学ぶ」、「客観的な思考・視点で考える」など、それぞれが考えを深め自分なりの意見を持つことができました。

今回は1日のみの開催となりましたが、内容の濃い楽しい分科会活動ができたと思います。参加者の皆さん、本当にありがとうございました。

第3分科会　参加者数　21名　「予防医療」

報告者　永井　雅（文徳高校２年）・田川　華恋（文徳高校２年）

第３分科会『予防医療』では途上国と先進国、それぞれの現状に興味をもち、自分達にできることを考え行動に移すきっかけになりたいという思いで活動をしました。

初めにアイスブレイクで共通点探しゲームを行い、お互いを知ってもらいました。そして先進国の医療の現状についてのクイズをした後に、携帯電話のブラックライトで手の汚れを可視化する実験と、学校の汚れていそうな所にパンを触れさせどれだけカビが生えるのかという実験を写真を使って説明し、実物も見てもらいました。その後、でんぷん糊を汚れと見立てた手洗いの実験をしました。そして、参加者４人をターゲットに行った「アイスブレイク中に何回顔に手を持っていくか」という検証の結果を伝え普段無意識に汚れた手でどれだけ顔を触っているかを実感してもらいました。実験を一通りやり終えたあと、「自分達が取り組める予防医療」についてみんなで考えました。その意見のひとつに「甘い物を取りすぎない」という意見がでたので、ジュースに含まれる砂糖の量やお菓子に含まれる油の量を見てもらいました。ほぼ毎日飲むジュースに含まれる砂糖の量に驚き、健康のためにもジュースを減らそうと決意する人もいました。次に途上国についてのクイズを通し私達がいかに途上国に対して無知なのかを自覚してもらった上で「途上国に対して興味を持ち、知り、伝えていくためには何ができるか」を話し合い、明日からの行動をここにいる私達から変えていくことを約束しました。短い時間でしたが充実した分科会活動となりました。参加者の皆さん、支えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

第４分科会　参加者数　24名　「差別と偏見」

報告者　蓮田　ひかり（文徳高校２年）

第４分科会では、差別と偏見をテーマとし、「差別や偏見をなくすために私たちにできること」について考えていきました。

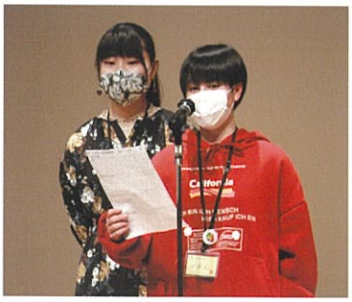
まず、グループごとに自己紹介をした後、「私の職業は？」というミニゲームをしました。グループの人から背中に貼ってある職業の第一印象を聞き、職業を当てるというものです。このミニゲームを通して、自分も気づかないうちに差別や偏見によって誰かを傷つけているかもしれないということを知ってもらいました。次に、ホームレスの人の印象を絵と言葉で表してもらいました。ホームレスの人の支援をしているボランティアに参加したECがホームレスの現状や襲撃事件について話し、差別や偏見が起こる原因を各グループで話し合いました。その意見をもとに、差別や偏見をなくすために私たちにできることは何かを考えました。そこで出た意見として、「自分の考え(価値観)を押し付けず、相手の個性を理解する」「自分の目で確かめてから判断する」「子供も大人も人権教育が必要」「学校で当事者の話を聞く」などがありました。これらの意見の中で自分たちにとって実践しやすいことを６つ選びポストイットに書きおこし、ランキング付けをして、そのポストイットをクリスマスツリーの形にしました。この分科会活動で学んだこと、自分にできることをこれからの生活に生かすだけでなく、周りに広めてほしいなと思っています。

短い時間でしたが、参加者の皆さんが積極的に取り組んでくれたのでとても充実した分科会になりました！参加者のみなさん、ECのみんな、アドバイザーやサポーターのみなさん、本当にありがとうございました！！

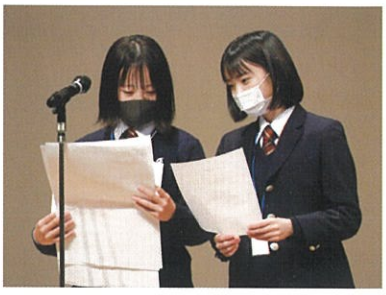
全体報告会

報告者　永井　雅（文徳高校２年）

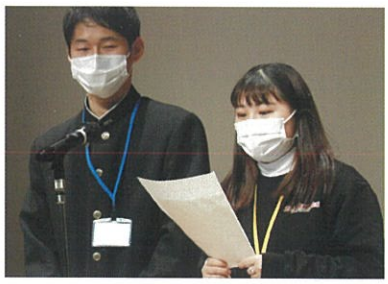
分科会活動の後に全体報告会を行いました。阿蘇青少年交流の家で、２泊３日で行う際は２日間の活動を模造紙にまとめて、分科会ごとにブースに分かれて１人１人が発表していました。しかし、今年は分科会活動が短くなったことや感染防止対策の観点から分科会の代表者２人がステージ上で発表するという形式で行いました。



第１分科会「食品ロス」では、話し合いで出た食品ロスの原因やそれに対して自分達にできることを参加者２人が発表してくれました。第２分科会「多文化共生」では、ECと参加者で活動の報告と自分たちで考え、辿り着いた答えについて発表をしてくれました。第３分科会「予防医療」では、EC２人が実験のことやみんなで考えた明日から実践できることについて発表してくれました。第４分科会「差別と偏見」では、１日の活動の流れと活動を通しての心境の変化についてEC２人が発表してくれました。



約５分間という短い時間でしたが、各分科会の活動報告に参加者のみなさんが興味を持って聞いて下さったため、それぞれの分科会活動の内容について全体で共有出来たと思います。



例年にない特殊な形で行われた全体報告会でしたが、参加者のみなさんが協力して下さったおかげでとても充実した報告会になりました。本当にありがとうございました。

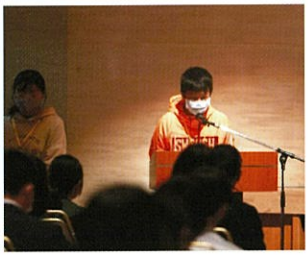
「閉会式」

報告者　髙橋　研杜（鹿島朝日高校２年）

全体報告会が終わり、最後のプログラムである閉会式では、西尾雄志先生からの講評をいただきました。孟子の「以羊易牛(羊を以て牛に易う)」という内容、功利主義における最大多数の最大幸福の観点など、先人の残した思想や、支援を呼びかけるNGOの広告や、友人や恋人の例といった身近な例えから、ボランティアという概念と、自分に近しい人と遠い人との関係性について考えることになりました。

ボランティアという言葉が、自分と他者の距離次第で、感じるニュアンスが変わってしまうということに気付き、少し驚きを感じました。

その後、ボラキャンのテーマソングである、「キセキの旅」を歌いました。時間に余裕がなく、あまり練習ができませんでしたが、これまで受け継がれてきたボラキャンをこの先に繋げていくという思いを込め最後まで歌いきりました。私たちの活動の軌跡が世界に満ちる思いを繋ぐ奇跡を起こせるよう、光をもたらす輝石となることを目指していきます。



最後にECと参加者全員で集合写真を撮影しました。新型コロナウイルスの感染防止のため一時は写真撮影を行わない方針でしたが、距離を保ったまま会場の上から撮影することで最初の構想とは違えど、実現することができました。

開催期間が二度に渡り短縮され、行き先がどうなるか不透明なところも多くありましたがEC、サポーターの方々、参加者等の協力があって、閉会式をもって全ての日程を終えることができ、嬉しい限りです。今回のボラキャンに関わった全ての人に感謝をしたいと思います。

実行委員長からのメッセージ

報告者　廣瀬　実結（一ッ葉高等学校２年）

みなさんこんにちは！

第15回国際ボランティアワークキャンプの実行委員長の廣瀬です。

今年は１日だけの開催となりましたがみなさんはいかがでしたか？「勉強になった」、「友達ができた」、「楽しかった」、というものであればとても嬉しく思います。

「勉強になった」というのは自分も例外ではありません。どうすれば楽しんでもらえるのか、自分が知っている事をどうわかりやすく共有するのか、会議をどう進めればいいのか…などと、あげたらきりがありません。また、今まで真剣に自分自身のことを考えたことがなかったのですが、このボラキャンを通して自分自身のことを知ることができました。さらに、今年は例年と比べて変更された点も多く、プログラムや分科会の内容も一から考え直したり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐことも考慮したりと前例がないことを新しく考えることができてとても勉強になったな、と実感しています。

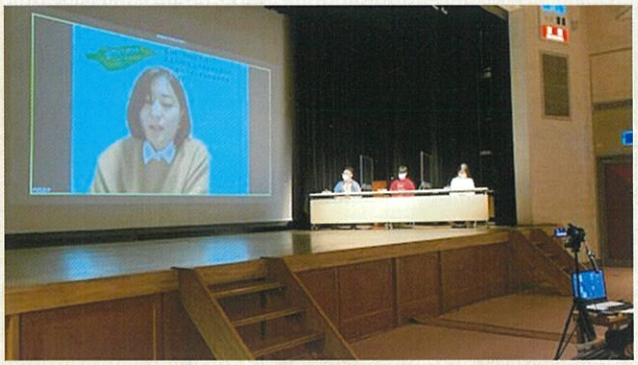
今回のボラキャンは、最後まで新型コロナウイルス感染症にふりまわされましたが、結果的にボラキャンが初めて開催されてから15周年という節目に新しいボラキャンの形を作れて、やり方や手段は「ひとつじゃないんだ」と伝えることができたと思います。

「もっとボラキャンの事について知りたい！」「来年ECになりたい！」という人、少しでも気になっているという人は、ぜひ第15回のECや事務局（熊本市国際交流振興事業団）に相談しにきてください。いつでもウェルカムです(笑)。

最後になりますが、第15回国際ボランティアワークキャンプに参加してくださったみなさん、分科会のことについて教えてくださった大学の先生方、大学生サポーターの方々、熊本市国際交流会館の事務局の方々、このボラキャンに関わり、助けて、学ばせてくださり本当にありがとうございました。

ボラキャン15周年記念オンラインフォーラム報告

第15回国際ボランティアワークキャンプのサイドイベントとして、「コロナ禍で現状不安と未来不透明な時代の高校生へエールを送りたい！」とボラキャンOB／OGを中心にオンラインでの企画会議を重ね、１日に短縮された第15回大会当日夜間に本オンラインフォーラムを開催しました。



2020年12月19日（土）
19：00～20：40　日本時間
ZOOMウェブナー

テーマ：今、いのちの連帯を！
平和な未来へ“TSUNAGU”

参加者：48人

■オープニング ムービー
（15年のキセキ、OB／OGからのメッセージ）〈作成：岩坂省吾：ボラキャン・サポーター〉

■開会あいさつ〈内尾晶子：第４、５回参加〉

■第１部　第15回大会活動速報
パネリスト　田川華恋　蓮田ひかり　髙橋研杜：第15回高校生実行委員
コメンテーター　木下俊和：国際交流振興事業団
モデレーター　坂野滉太：第12、13回参加

■第２部　OB／OGトーク　ぼくたち、わたしたちの時代、今、高校生へ伝えたいこと
パネリスト　玉城麻衣：第４、５回参加
大和賢佑：第５回参加
黨翠　：第５、６回参加
下川嵩暉：第11、12回参加
増田京悟：第13回参加
モデレーター　田代智也：第８回参加

■クロージング　未来に向けて
パネリスト　坂野滉太　田代智也
木下俊和　興梠寛：昭和女子大学
モデレーター　福永健人：第７回参加

■お礼の言葉〈勝谷知美　：国際交流振興事業団〉

■機材操作・運営
〈山下史令：第５回参加　橋本摩耶：第11回参加　岩坂省吾　八木浩光：国際交流振興事業団〉

パネリスト・レポート
黨 翠（第２部）

第15回国際ボランティアワークキャンプのサイドイベントとして、19時よりオンラインフォーラムを開催しました。このイベントは「コロナ禍で現状に不安を抱えている高校生にエールを送りたい！というボラキャンOB／OGの思いから始まり、日本各地にいるOB／OGたちが、オンラインでのミーティングを通して準備を進めました。当日は、48名の方に参加いただきました。開催内容は、第一部に本大会実行委員の高校生からの活動報告、第二部にボラキャンを卒業した大学生・社会人のOB／OGより高校生へ伝えたいことをテーマにパネルディスカッションを行いました。第三部にはオブザーバーの方も交え、「未来へ向けて」をテーマにクロージングを行いました。私は第二部のパネラーとして参加し、オンラインならではの戸惑いもありましたが、高校生に一番伝えたかった「様々なことに挑戦してほしい」という思いを伝えることができました。また、今回のイベントを通して、OB／OGが高校生と関わっていくことの新しい可能性を感じることができ、次につながる貴重なイベントとなりました。今後ますますボラキャンが高校生の挑戦の場であり続けることを期待しております。

第15回　国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
高校生実行委員会メンバー

廣瀬　実結	一ツ葉高校（実行委員長）	本多　明日香	熊本県立熊本高校
野口　花音	文徳高校（副委員長）	友井　寧音	熊本県立熊本高校
高野　倖多	文徳高校（副委員長）	王　柏淪	熊本市立必由館高校
永井　雅	文徳高校	嶌田　トリシャ	熊本県立第一高校
蓮田　ひかり	文徳高校	髙橋　研杜	鹿島朝日高校
田川　華恋	文徳高校	平川　愛菜	真和高校

●構成団体／熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、税理士法人近代経営、
株式会社日本リモナイト、一般社団法人ドリーム・ラボ、
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

●協力団体／独立行政法人国際協力機構（JICA）九州国際センター

●後　　援／熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、日本ボランティア学習協会

令和２年度　子どもゆめ基金助成事業

National Institution For Youth Education 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金助成活動」　体験の風をおこそう

【事 務 局】
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
〒860-0806
熊本市中央区花畑町４番18号　熊本市国際交流会館
TEL：096-359-2121
E-mail：pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL：https://www.kumamoto-if.or.jp